

令和6年度 小樽市立桂岡小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

- ① 令和5年度改善プランの定着目標の達成状況
- ・ 学年末漢字まとめのテストの正答率が70%の児童の割合100%全学年も目標に到達することができなかった。
 - ・ 「ほっかいどうチャレンジテスト」の四則計算の問題(分数、小数を含む。)の正答率を80%以上は、第1回の前年度問題では2年生、4年生、5年生、第2回の1学期末問題では1年生、3年生、4年生、5年生であった。
- ② 令和5年度全国学力・学習状況調査結果(教科)
- ・ 国語は、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える問題など「話すこと・聞くこと」の平均正答率が全国と比較して高い。また、グラフを読み取って示された条件に合わせて書くなど、「書くこと」の平均正答率が全国と比較して低い。
 - ・ 算数は、伴って変わる2つの数量の関係や割合等の「変化と関係」領域の平均正答率が全国より高い。また、計算問題や筆算の仕方を説明する問題などの「数と計算」領域や、グラフや表から情報を読み取る問題などの「データの活用」領域の平均正答率が全国と比較して低い。
- ③ 標準学力調査結果
- ・ 国語は、4年生と5年生の「我が国の言語文化に関する事項」領域と、3年生と5年生の「言葉の学習」についての平均正答率が全国平均を上回った。
 - ・ 算数は、2年生と3年生、5年生の「データの活用」領域と、2年生と3年生の「測定」領域の平均正答率が全国を上回った。
 - ・ 既習の漢字の定着や「数と計算」領域、「図形」領域に課題が見られた。
- ④ 令和5年度全国学力・学習状況調査結果(児童質問紙:ICT)
- ・ 国語、算数の学習が「好き」「大切だ」と回答した児童のそれぞれの割合は、全国及び全道と比較して低い。
 - ・ 「毎日朝食を摂る」と回答した児童の割合は84.6%で、全国及び全道と比較して高い。
 - ・ 普段(月曜日から金曜日)のテレビゲーム等の時間は、8割の児童が1日1時間以上使用している。
 - ・ 普段(月曜日から金曜日)の学校の授業以外に勉強している時間は、9割の児童が1日1時間以上2時間未満と回答しており、全国及び全道と比較して短い。
 - ・ 読書が「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童の割合は、全国及び全道と比較して高い。
- ⑤ 家庭生活及び学習の状況等
- ・ 家庭学習の提出率を各学年90%以上にするという目標は、年間4回の家庭学習ががんばろう週間での平均提出率は、1年生87%、2年生89%、3年生100%、4年生94%、5年生86%、6年生77%であり3年生、4年生の2学年は目標を達成することができた。
 - ・ 1日の家庭学習の時間を学年×10分+10分以上取り組むという目標は、年間4回の家庭学習ががんばろう週間での取り組んだ割合は1年生96%、2年生56%、3年生63%、4年生66%、5年生36%、6年生8%であった。
 - ・ 家庭読書の時間を1日10分以上取り組むという目標は、年間4回の家庭学習ががんばろう週間で1日10分以上取り組んだ児童の割合は、1年生73%、2年生54%、3年生76%、4年生79%、5年生53%、6年生40%であった。
 - ・ テレビゲーム等の時間を1日1時間以内にするという目標は、年間4回の家庭学習ががんばろう週間で、テレビゲーム等の時間を1日1時間以内の児童の割合は、1年生39%、2年生43%、3年生56%、4年生32%、5年生42%、6年生6%であった。
 - ・ 毎日朝食を摂取して登校する児童を100%にするという目標は、前後期の児童アンケートでは、84%の児童が「毎日食べている」と回答した。

2 学年ごとの定着目標(数値目標)

<国語科>

学年	定着目標
1年	学年末漢字まとめのテストの正答率が70%以上の児童を100%にする。
2年	学年末漢字まとめのテストの正答率が70%以上の児童を100%にする。
3年	学年末漢字まとめのテストの正答率が70%以上の児童を100%にする。
4年	学年末漢字まとめのテストの正答率が70%以上の児童を100%にする。
5年	学年末漢字まとめのテストの正答率が70%以上の児童を100%にする。
6年	学年末漢字まとめのテストの正答率が70%以上の児童を100%にする。

<算数科>

学年	定着目標
1年	算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率を80%以上にする。
2年	算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率を80%以上にする。
3年	算数専科教員が作成した計算まとめテストの(分数、小数を含む)の平均正答率を80%以上にする。
4年	算数専科教員が作成した計算まとめテストの(分数、小数を含む)の平均正答率を80%以上にする。
5年	算数専科教員が作成した計算まとめテストの(分数、小数を含む)の平均正答率を80%以上にする。
6年	算数専科教員が作成した計算まとめテストの(分数、小数を含む)の平均正答率を80%以上にする。

<学習・生活習慣(家庭学習等)>

学年	定着目標
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日の家庭学習の時間を学年×10分+10分以上 ・ 家庭読書の時間を1日10分以上 ・ 学習以外でのスクリーンタイムを1日1時間以内 ・ 毎日朝食を摂取して登校する児童を100%
2年	
3年	
4年	
5年	
6年	

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① 全校統一した学習規律の徹底。
- ② 朝学習や放課後の時間における既習の漢字や計算問題の繰り返し学習の実施。
- ③ 長期休業中における補充学習の実施。
- ④ 朝読書の実施や学校図書館の有効活用など、本への関心を高め、読む力の向上を図る取組を実施。
- ⑤ A I ドリルを活用した家庭学習の取組

(2) 確かな学力を育む授業改善の取組

- ① 課題解決型学習を重視した授業展開「小樽 授業づくりの5つのSTEP!!」による見通しと振り返り、対話的な学習を位置付けた授業づくりの実施。
- ② 自分の考えやまとめを書く活動を授業に位置付け、書く力の向上を図る授業の工夫。
- ③ 退職教員等外部人材活用事業非常勤講師を活用した算数の少人数・習熟度別学習の充実。
- ④ ICTを活用した個別最適な学びの工夫。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣を育む取組

- ① 「家庭学習ががんばろう週間」を年間4回実施し、学年×10分+10分以上の家庭学習に取り組ませるとともに、学習習慣の定着を図る。
- ② 学級担任と栄養教諭のチーム・ティーチングによる家庭と双方向に連携した食育授業を実施し、
- ③ 年4回の「家庭学習ががんばろう週間」に合わせて、生活習慣スケジュール表(Chromebook版)を活用した「早寝、早起き、朝ご飯+運動」など、日常的な生活習慣を振り返り、自己目標を設定する場を設けるなどして、自己管理能力の育成を図る。
- ④ 保護者会、懇談会、通信等を通じた「早寝、早起き、朝ご飯+運動」「おたるスマート7」等の取組を啓発。

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R 6 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律、朝学習及び放課後学習、家庭学習の方針等を全職員で共通理解。 ・全国学力・学習状況調査及びチャレンジテストの過去問題等の実施による児童の学力定着状況を把握 ・朝食摂取の啓発活動（通信ほか）
	<ul style="list-style-type: none"> ○R 6 全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点
	<ul style="list-style-type: none"> ○標準学力調査実施（2年、3年、4年、5年）
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会（学習・生活習慣の啓発活動） ・校内食育等研究推進体制の構築
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ○標準学力調査の結果分析・共有
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習がんばろう週間①
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・読書チャレンジ週間 ・保護者会（学習・生活習慣の啓発活動） ・夏休みスマイル学習の実施 ・自己評価、児童・保護者アンケートの実施
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジテストの結果分析・共有 ・自己評価、児童・保護者アンケート結果分析
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ○R 6 全国学力・学習状況調査結果分析・共有
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習がんばろう週間②
10 月	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・読書チャレンジ週間 ・家庭学習がんばろう週間③ ・公開研究会の開催（体育、食育授業の研究） ・保護者会（学習・生活習慣の啓発活動） ・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施
12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、児童・保護者アンケートの実施 ・冬休みスマイル学習の実施
R 7 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の過去問題等の実施 ・チャレンジテストの結果分析・共有
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、児童・保護者アンケート結果分析 ・家庭学習がんばろう週間④
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会（学習・生活習慣の啓発活動） ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・全国学力・学習状況調査の過去問題の実施
	<ul style="list-style-type: none"> ○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①学校評価（自己評価）及び児童・保護者アンケートの結果（年2回）、校内研修等でのノート指導の検証
- ②③チャレンジテスト、確認テスト、漢字テスト等の結果
- ④生活リズムチェックシート（Chromebook版）による読書時間の結果（年4回）、チャレンジテストの結果（読む力）

(2) 確かな学力を育む授業改善の取組

- ①学校評価（自己評価）及び児童・保護者アンケートの結果（年2回）
- ②チャレンジテストの結果（書く力）、校内研修等でのノート指導の検証
- ③単元テスト及び確認テストの活用、チャレンジテストの結果
- ④学校評価（自己評価）及び児童・保護者アンケートの結果（年2回）

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣を育む取組

- ①生活リズムチェックシート（Chromebook版）の結果（家庭学習の時間）、学校評価（自己評価）及び児童・保護者アンケートの結果（年2回）
- ②生活リズムチェックシート（Chromebook版）の結果（朝食の摂取状況）、学校評価（自己評価）及び児童・保護者アンケートの結果（年2回）
- ③生活リズムチェックシート（Chromebook版）の結果（早寝・早起き・朝ご飯、スクリーンタイムの時間等）
- ④学校評価（自己評価）及び保護者アンケートの結果（年2回）